

れき 民
となん歴民だより vol.70

Morioka tonan history and folklore museum

令和4年6月30日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



手代森遺跡出土 注口土器
縄文時代晩期
当館蔵

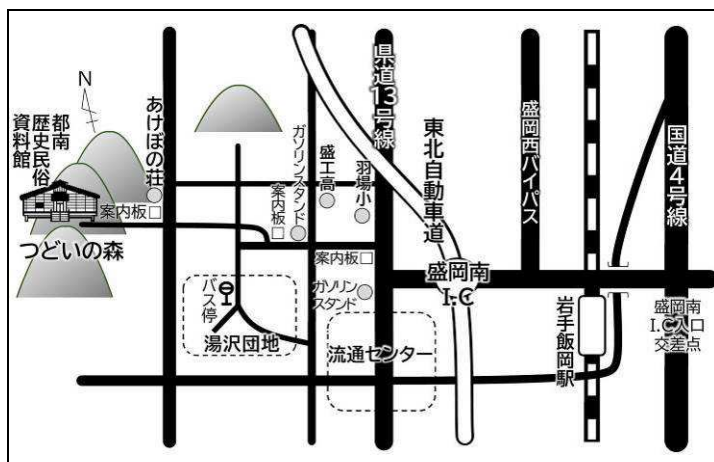
是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 盛岡市・都南村合併 30 周年記念事業のお知らせ
- 資料は語る (70)
- 盛岡市所在
指定・登録文化財紹介 (70)
- となんの昔ばなし番外編

MAP☆ACCESS

★「都南つどいの森」の案内板を目印にお越しください★



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無料

休館日

月曜日
(祝祭日にあたる日
の場合は翌平日)、
年末年始

盛岡市・都南村合併 30 周年記念事業のお知らせ

令和 4 年 (2022)、県都盛岡市と紫波郡都南村が合併し 30 周年を迎えました。記念事業として、盛岡市遺跡の学び館や都南歴史民俗資料館では都南地域の歴史を紹介する展示を行います。この機会に都南地域の歴史を見直してみませんか。

1 遺跡の学び館でテーマ展「都南の遺跡」開催

都南地域に所在する縄文時代から中世までの遺跡を通して、都南の歴史や文化を紹介します。

都南歴史民俗資料館に収められている手代森遺跡の土器や湯壺経塚の常滑壺も展示されます。

期間：令和 4 年 6 月 4 日 (土)～9 月 19 日 (月)

会場：盛岡市遺跡の学び館

盛岡市本宮字荒屋 13-1 (中央公園内)

休館日：月曜日 (祝祭日にあたる日の場合は翌平日)

毎月最終火曜日

入場料：一般 200 円、小中学生 100 円 (団体割引あり)

関連事業：学芸講座 I「都南の遺跡」

9 月 18 日 (日) 13:30～15:00

詳細・申し込み方法はチラシ等をご覧ください。

盛岡市・都南村合併 30 周年記念事業テーマ展

都南の遺跡

To nan

関連事業

- 都南歴史民俗資料館 企画展「都南のあゆみ」(7/16～11/13 開催) 共同企画スタンプラリー
2 館長学芸に記念がスタンプカードセットを贈呈
- 学芸講座 I「都南の遺跡」
日 時 9 月 18 日 (日) 13:30～15:00
会 場 盛岡市遺跡の学び館 (定員 40 名)
講 師 当館職員
申 込 往復はがきによる事前申し込み

【企画】 盛岡市遺跡の学び館 企画展「都南のあゆみ」
日 時 7/16～11/13 (土曜 16:30 閉館)
会 場 都南歴史民俗資料館 (紫波郡都南村)
【企画】 学芸講座 I「都南の遺跡」
日 時 9/18 (日) 13:30～15:00
会 場 盛岡市遺跡の学び館 (盛岡市本宮字荒屋)
講 師 当館職員
申 込 往復はがきによる事前申し込み

【問い合わせ】
TEL 020-0842
FAX 020-638-6605

令和 4 年 6/4 9/19

盛岡市 遺跡の学び館

2 都南歴史民俗資料館で

企画展「都南のあゆみ」開催

藩政時代から明治・大正・昭和、そして平成 4 年の盛岡市との合併に至るまでの都南地域の歴史とそこに住む人々によって継承され育まれてきた伝統や文化、人々の生活の変化の様子について、資料や写真パネルを通して紹介します。

期間：令和 4 年 7 月 16 日 (土)～11 月 13 日 (日)

会場：盛岡市都南歴史民俗資料館

盛岡市湯沢 1-1-38 (都南つどいの森内)

休館日：月曜日 (祝祭日にあたる日の場合は翌平日)

入場料：無料

関連事業：展示解説 (館長が企画展の解説をいたします)

7 月 31 日 (日) 13:30～14:00

当日直接ご来館ください (申し込み不要)。

盛岡市・都南村合併 30 周年記念事業企画展

都南のあゆみ

令和 4 年 7 月 16 日 (土)～11 月 13 日 (日)

開館時間 9 時～16 時 入場料 無料
休館日 月曜日 (休日の場合は開館、翌平日に休館)

盛岡市都南歴史民俗資料館
〒020-0842 盛岡市湯沢 1-1-38 (都南つどいの森内)
TEL/FAX 019-638-7228

3 2館共同企画 スタンプラリー開催

期間中、遺跡の学び館と都南歴史民俗資料館の2館を見学された方に記念ポストカードセットをプレゼントします。

期間：令和4年7月16日（土）～11月13日（日）

詳細は告知ポスター等をご覧ください。

都南の歴史についてもっと知りたい方は

『となん歴民だより』バックナンバーをご活用ください

『となん歴民だより』の過去の号をウェブで公開しています。

①盛岡市公式ホームページにアクセス

<https://www.city.morioka.iwate.jp>

②トップページ上部の検索窓で「広報ID」を選択
「1000860」と入力し右側の「検索」をクリック

検索

広報ID

1000860

検索

※令和4年6月現在の情報です。

例えば「都南の遺跡」について知りたい方には

都南歴史民俗資料館館長(当時) 玉川英喜 「都南の遺跡」シリーズがお勧めです。

Vol. 31「都南の遺跡(その1)」、 Vol. 33「都南の遺跡(その2)」、 Vol. 35「都南の遺跡(その3)」

Vol. 42「都南の遺跡(その4)」、 Vol. 45「都南の遺跡(その5)」

◆資料紹介◆

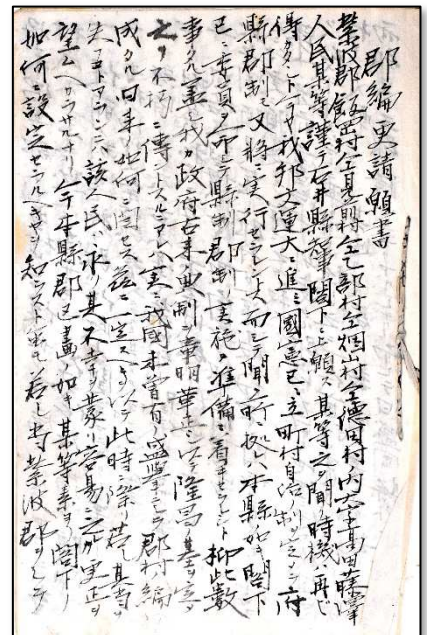
郡変更請願書(明治23年10月)

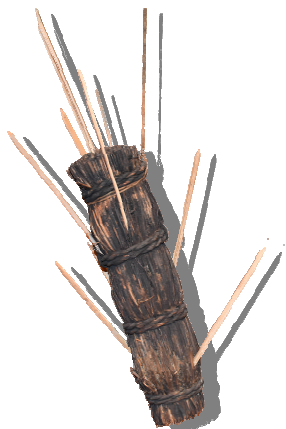
当館蔵

明治22年(1889)、市町村制の実施により都南地域は従来の14か村から飯岡村・見前村・乙部村の3村に編成替えされました。郡制にも新編成の動きがあったため、紫波郡に編入されている飯岡・見前・乙部や現矢巾町の一部の村民約120名は右のような請願書を県に提出し、南岩手郡への改編を訴えました。

その理由はさまざまありますが、ひとつには地理的要因があります。

紫波郡の役場がある日詰までは距離が2～6里(8～24km)あるのに対し、盛岡へは20丁～4里(2.2km～16km)と近いこと、急を要する事態のとき警察署の所在地が日詰では不便であり、煩雑な用事の場合は泊まりがけで行く必要があること、さらに乙部村民は北上川が増水し渡し船が使用できないときは盛岡の明治橋まで行き川を渡り日詰へ向かうため、10里もの迂回を強いられることが挙げられています。





【 弁 慶 】

令和4年(2022)5月3日、平泉町で春の藤原まつり源義経公東下り行列が3年ぶりに開催された。本年の大河ドラマにも登場した源義経とともに、その郎党武蔵坊弁慶も長年人々に語り継がれ愛されている。

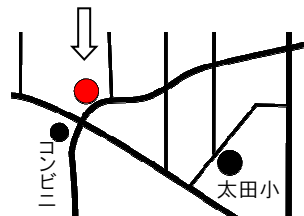
上掲の写真の道具も名称を「弁慶」という。稲藁いなわらや麦藁むぎわらを束ねたもので、串刺しにした川魚などを差し込み、囲炉裏いろりの上に吊り下げ使用する。川魚は燻製になり、保存食とされた。

名称は、武蔵坊弁慶が七つの武器を背負った姿、あるいは衣川の戦いで体中に敵の矢を受け絶命してもなお立ち続けたという「弁慶の立往生」の姿を彷彿とさせることから命名された。弁慶という人物が親しまれてきたことがうかがえる。

市指定有形民俗文化財



路傍にあります。
車や歩行者にご注意ください。

どうひょう こうしんくようとう
道標・庚申供養塔めいわ に きのとどのとしはちがつじゅうななにち
(明和二乙酉歳八月十七日)

花崗岩で作られた高さ100cmの碑です。上太田宇大堀所在の、盛岡城下から秋田の横手に通じる沢内街道の道しるべで、「右ハ中瀬道」「左ハ海道」と刻まれており、右へ進むと雫石川の中瀬の船場へ続く道、左は繋への道を示します。

梵字は地藏菩薩を意味し、碑面中央部には見ざる・聞かざる・言わざるの三猿と二鶏が描刻され、密教における庚申信仰を表しています。下段には上太田村と中太田村、上鹿妻村の寄進した人々の名が刻まれています。

参考文献等：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)

『見前の姉―「魂が来た」という説―』となんの昔ばなし番外編

郷土史家・民俗研究家橋正三(一八五九〜一九三七、号・不染)

の隨筆から、見前にまつわる怪談を意識で掲載します。

明治二十五〜六年頃、見前の姉が大病を患ったことがある。母は看病のため見前に泊まり込んでいた。

盛岡で大相撲が行われた日、私(正三)は一人で留守番をしていた。そこへ、見前の親類が相撲見物の帰りに私のもとを訪ね姉の病状を教えてくださいました。

翌朝、呼び出されて見前に赴くと、母に「昨夜家に居たか」と問われ、「見前の人たちが来たから話をし、遅くなったのでそのまま寝た」と答えた。すると母は「それだ」と言い、次のような話をした。

昨夜、赤子が泣くのでおきよという娘に頼んで煎餅を買いに行かせたが、おきよは「たましいが来た」と言って飛び帰ってきた。母は「病人の居る家でそんなことを言うな」と叱り、おきよに付き添い大沼(現三本柳十二地割付近)の茶屋で煎餅を買い、帰途に着いた。そのとき、街道(現国道四号線)の松並木の下を「ブワ、ブワ、ブワ」と飛んでくる光が見えた。おきよは「あれ、あれお婆さん、さっき行った魂はあれだ」と言う。立ち止まって見ていると、飯を盛る木べらのような形をした光は静かに松並木の下を飛んでいたが、ある家の前で「ペカリ」と消えた。

母とおきよが帰り着くと、病床にあった姉は目を覚まし「ああ、疲れた疲れた」と言う。母が「どこかに行ってきたのか」と聞くと、「川原丁に行ってきた」、「正三は居たか」と聞くと「人がたくさん居て行き合わなかった」と言う。母は姉の命があとわずかだと感じ、正三を呼びつけた。

その後、姉は持ち直し長生きしたが、当時のことは覚えていないという。